

## ○令和元年度教育事業

### 「体験の風キャンプ in ゆーすぴあ（岩見沢編）」

R2.1月8日（水）～10日（金）

#### ◆目的

様々な課題を抱える青少年を対象に、自然体験等の活動を通じた「生活・自立」を支援する取組を行い、基本的な生活習慣の確立や自立する力を身に付けさせるとともに、成果を広く周知することを通して広く体験活動の普及を目的とします。

◆参加実績 参加者数：36名（引率者含む）

#### ◆プログラム

オリエンテーション	施設の使い方を知ってもらい、子どもたちと交流の家職員間の緊張をほぐします。
スノーシューハイク で絶景探し	スノーシューを履いて、大雪周辺の新雪の上を歩きます。 歩きながら、思い出に残したい絶景を探し、カメラに収めます。
ゆったりタイム	体育館やホールなどで体を動かしたり、本を読んだりするゆったりする時間です。
動物園ツアー	旭山動物園で冬ならではの動物の様子などを見学します。
思い出クラフト	大雪の思い出に残る写真を入れたフォトフレームと缶バッジを作ります。
スキー・雪遊び	スキーグループと、雪遊びグループに分かれて、体を動かします。

#### ◆成果

- 同じ体験を共にすることで、その中での助け合いが自然に生まれたり、年齢に関係なく気遣いをしたりする場面がたくさん見られた。
- たくさんの団体利用がある日に宿泊をしたため、施設の人たちよりも大きな集団の中で暮らすという社会経験を積む機会になった。中でも、多くの利用者がある中でのつどいの司会や団体紹介は、大きな達成感を味わうことができたようだった。

#### ◆参加者の声

- すごくよかった。いつもはゲームばかりだけど、スノーシューハイクやスキーができてすごく経験になりました。（小学生）
- 他団体と一緒にの集団生活ということで、気後れしながらも、他の団体の人たちに対する気遣いが感じられました。（食事場面など）（施設職員）
- 新しい環境・活動に興味をもち、その環境の中で自分の立場や役割を認識し、向かっていく力があると感じた。小さい子たちも、大人の指示や助けを待つのではなく、自分の力でたくさんのことをやっていた。（施設職員）

#### ◆事業運営のツボ・工夫・反省

- 「動物ふれあい体験」や「スノーシューハイク」など、児童養護施設がある地元では体験できないことを補う点を意識して企画立案を行った。
- 参加者の年齢層の広さ、特別の配慮を要する児童・生徒がいることなどを考慮し、施設職員と対応を確認しながら、全体の流れにとらわれすぎず、プログラムの中でも休憩時間や自由時間の設定を行うなどし、無理のない運営を行った。

#### ◆事業運営費

・参加者食費	160,830円
・業務委託費	71,160円
・旅費	19,818円
・消耗品費	9,513円
合計	266,597円